

御城印帳

真田信之公所用の陣羽織と鉄扇に六文銭の旗をデザインした松代オリジナルの御城印帳です。(赤・黒の2種類があります)

信州真田十萬石



信州真田十萬石



1冊 ¥2,400(税込)

信州松代観光協会(真田宝物館隣)で販売中



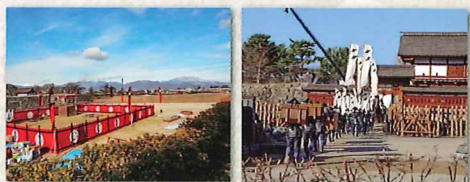
御城印

松代オリジナル六文銭が押されています。期間限定版も随時販売していますので、ホームページにてご確認ください。

1枚¥300(税込)

信州松代観光協会(真田宝物館隣)で販売中

ロケ地情報



「清須会議」「殿、利息でござる!」「真田丸」他、松代城跡を舞台に映画・ドラマなど、数々の名シーンが撮影されてきました。

松代柴石

松代柴石は、松代城の石垣に使用されており、築城以来、城を守り、真田家10代約250年の歴史を支えてきました。柴石を活用した信州松代の新たなお土産品です。



〈ぐい呑み&片口〉

〈六文皿〉



〈植物ポットキューブ〉



〈フレグランスロック〉



〈松代アロマ〉

松代荘 と webサイト「minne」でも購入出来ます

● マツシロックプロジェクト
☎026-224-8316
<https://www.matsushirock.com>



ACCESS MAP



アクセス

- 上信越自動車道 長野ICから約2km 車で5分
- JR長野駅善光寺口バス3番乗り場からアルピコバス 30 古戦場経由松代高校行に乗車、所要時間約30分、「旧松代駅」停留所で下車、徒歩約5分

問い合わせ

● 信州松代観光協会
☎ 026-278-3366
<https://www.matsushiro-kankou.com>



● 松代文化施設等管理事務所 (真田宝物館内)
☎ 026-278-2801
<https://www.sanadahoumotsukan.com>



● (公財)ながの観光
コンベンションビューロー
☎ 026-223-6050
<https://www.nagano-cvb.or.jp>

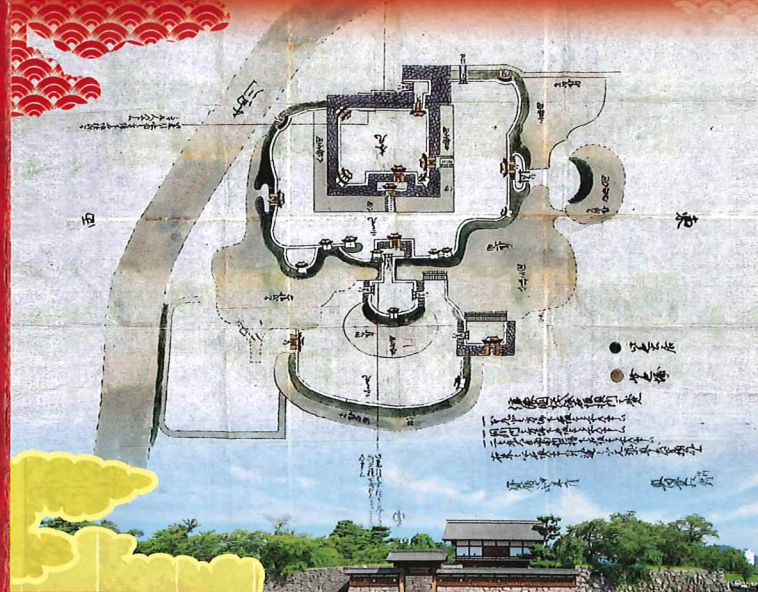


日本100名城



松代城

をめぐる



開門時間

4~10月/9:00~17:00
11~3月/9:00~16:30

※ 入場は閉門30分前まで
※ 12月29日~1月3日は松代城本丸内への入場はできません

入場料 無料

● 日本100名城スタンプは真田邸(新御殿)表門前にあります

松代城

松代城は長野盆地の南に位置し、東西南の三方を山に囲まれ、城の北側を流れる千曲川を自然の要害として利用した平城である。千曲川に接する最奥部に本丸を配置し、南に向けて二の丸と三の丸を配置する梯郭式の縄張を基本とする。

享保2年(1717)の火災後に再建された櫓門を史料と礎石(柱がのっていた石)を基に復元。太鼓門・北不明門は、当時の礎石をそのまま利用している。



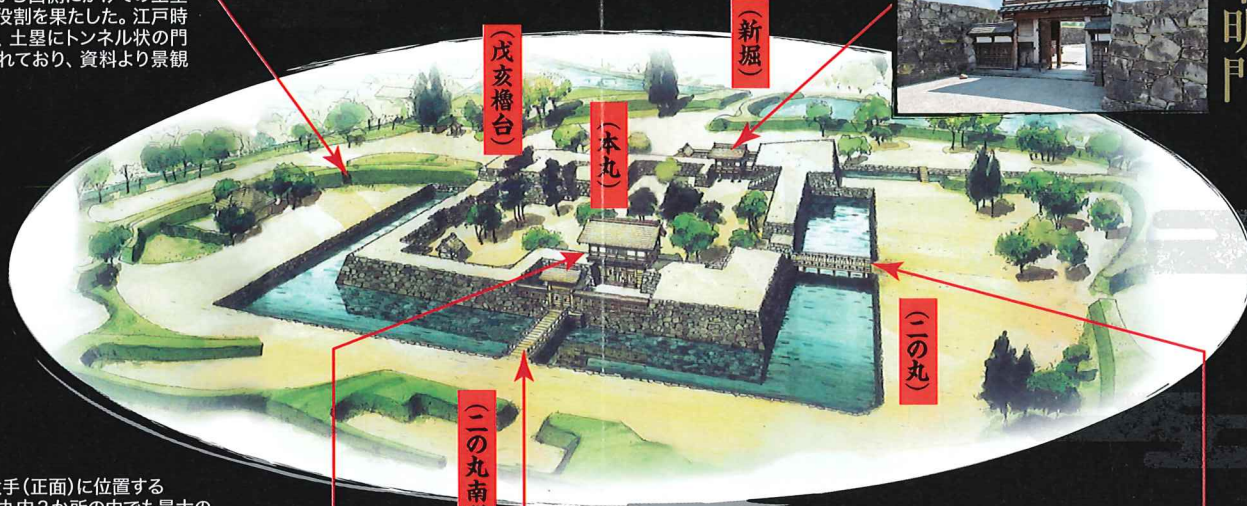
春には約100本の桜が咲き誇ります

北不明門

きたあかずもん



本丸搦手(からめて、裏側)に位置する。当初は千曲川に接していたため、「水ノ手御門」とも呼ばれていた。



内堀

うちほり

内堀の幅は15~20m。二の丸側は、橋台部分と二の丸御殿があった東側一部のみ石垣が築かれた。

東不明門前橋

ひがしあかずもんまえばし



二の丸から本丸へ渡る橋。



二の丸から本丸へ渡る大手にかかる橋。災害のために掛け直された橋脚跡が残る。

太鼓門前橋

たいこもんまえばし



本丸南側の大手(正面)に位置する太鼓門は、本丸内3か所の中でも最大の櫓門で、高さ11mを超える。最も太い冠木(かぶき)には長さ12m余りのケヤキの大木が使われている。屋根は善光寺三門でも用いられるトチ葺きで、厚さ4分(12mm)のサワラ材を重ねて葺かれている。

太鼓門

たいこもん

土塁

どるい



本丸を囲む北から西側にかけての土塁は一部堤防の役割を果たした。江戸時代の絵図には、土塁にトンネル状の門が数か所描かれており、資料より景観復元した。

石垣

いしがき



石垣は水害や地震など、災害ごとに積み替えられ、最も古いとされる戌亥櫓の野面積みをはじめ、打ち込みハギ、切込みハギなど様々な工法が見られる。石材は松代産の安山岩で、通称、柴石(しばいし)も使われている。



真田信之

松代城 城主

城主・城代・城将

永禄3年(1560)頃甲斐の武田信玄が川中島の合戦時に最前線基地として築城した「海津城」が始まりとされる。その後武田氏が滅亡、織田、上杉、豊臣、徳川と政権が変わることで、城主もめまぐるしく代わり城名も改名された。元和8年(1622)真田信之が上田から移封されてから約250年間真田氏の居城となった。

1553年~1564年 川中島合戦
◆1560年 武田信玄により海津城築城

【海津城】

春日弾正虎綱 かすがだんじょうとらつな
永禄の頃~天正6年(1560~1578)

春日信達 かすがのぶたつ
天正6年~天正7年(1578~1579)

安部勝宝 あべかつよし(かつとみ)
天正7年~天正10年(1579~1582)

森 長可 もりながよし
天正10年~天正10年(1582~1582)

村上景国 むらかみかげくに
天正10年~天正11年(1582~1583)

上条宣順 じょうじょうぎじゅん
天正11年~天正13年(1583~1585)

須田満親 すだみちか
天正13年~慶長3年(1585~1598)

(太閤蔵入地)
慶長3年~慶長3年(1598~1598)

田丸直昌 たまるなおまさ
慶長3年~慶長5年(1598~1600)

【待城】

森 忠政 もりただまさ
慶長5年~慶長8年(1600~1603)

【松城】

松平忠輝 まつだいらただてる
慶長8年~慶長15年(1603~1610)

花井吉成 はないよしなり
慶長16年~慶長18年(1611~1613)

花井義雄 はないよしお
慶長18年~元和2年(1613~1616)

松平忠昌 まつだいらただまさ
元和2年~元和4年(1616~1618)

酒井忠勝 さかいただかつ
元和4年~元和8年(1618~1622)

◆1622年 真田信之が上田から移封

初代 真田信之 さなだのぶゆき
元和8年~明暦2年(1622~1656)

二代 真田信政 さなだのぶまさ
明暦2年~万治元年(1656~1658)

【松代城】

三代 真田幸道 さなだゆきみち
万治元年~享保12年(1658~1727)

◆1711年頃 城名を松代城に改める

◆1717年 享保の火災により城全焼

四代 真田信弘 さなだのぶひろ
享保12年~元文元年(1727~1736)

五代 真田信安 さなだのぶやす
元文2年~宝暦2年(1737~1752)

◆1742年 寛保の水害(戌の満水)

六代 真田幸弘 さなだゆきひろ
宝暦2年~寛政10年(1752~1798)

◆1765年 明和の水害

◆1770年 花の丸に御殿を移す

七代 真田幸専 さなだゆきたか
寛政10年~文政6年(1798~1823)

八代 真田幸貫 さなだゆきつら
文政6年~嘉永5年(1823~1852)

◆1847年 善光寺地震

九代 真田幸教 さなだゆきのり
嘉永5年~慶応2年(1852~1866)

◆1853年 花の丸火災で全焼

◆1854年 安政の地震

◆1864年 新御殿建築

十代 真田幸民 さなだゆきもと
慶応2年~明治4年(1866~1871)

明治5年(1872年)の廃城以降、松代城の土地建物は払い下げ、開墾された。

◆1873年 花の丸焼失

◆1964年 県史跡に指定

◆1981年 国史跡に指定

◆1995年 環境整備工事に着手

◆2004年 松代城復元保存整備完了

復元でよみがえった城郭の変遷と歴史

元和8年(1622)に真田信之が上田から移封して以降、明治の廃城まで約250年間、十萬石という、信濃国最大の石高を誇る真田氏の居城となった。本丸御殿は享保2年(1717)の火災で焼失し、その後城郭の南西部、花の丸御殿に移された。松代城は明治5年(1872)の廃城後、建物は取り壊しや火災で失われ、堀は埋められるなど城郭としての景観は失われ、本丸部分のみ公園として保全された。昭和56年(1981)国史跡に指定されて以降、発掘や資料調査が行われた。平成7年から調査に基づき、近世後期の姿に復元する整備がおこなわれ、平成16年(2004)に、太鼓門、北不明門や土塁、内堀などが復元された。現在も調査と整備が進められている。

復元でよみがえった城郭の変遷と歴史